

病院たより

今も存在する健康に影響を与える感染症



結核



結核患者数は医療の進歩によって過去と比較すると減少しましたが、近年でも日本では毎年約10,000人が新たに結核を発症し、毎年1,500人以上が亡くなっています。また、COVID-19での受診控えによる見かけ上の低下、高齢者の非典型症例・外国出生者の方の感染増加が課題になっているようです。※

結核とは？

結核は、結核菌によって主に肺に炎症が起こる感染症です。発症すると、咳・痰、発熱、倦怠感など、一見風邪に似た症状が現れます。しかし一般的な風邪は1週間程度で改善するのに対し、**結核は2週間以上症状が続くことが特徴**です。そのため、2週間以上にわたり咳や微熱、倦怠感が続く場合には結核の可能性を考える必要があります。

結核の主な感染経路

結核は「空気感染」で広がる病気です。結核の患者さんが咳やくしゃみをすると、目に見えないほど小さな結核菌を含んだしぶきが空気中に飛び散ります。それを周りの人が吸い込むことで感染することがあります（**空気感染**）。ただし、結核菌が体の中に入っても、健康な人なら体の免疫力によって発症しないことが

ほとんどです。一方で、高齢者、小さなお子さん、病気などで免疫力が弱っている人は十分な免疫力がないこともあります。特に高齢の方は、過去に感染した結核菌が体内に眠っており、加齢や病気で免疫力が落ちると再び活動を始めて発病してしまうことがあります。

結核の治療

結核と診断されても、周りの人にうつす心配がなければ通院で治療することができます。一方で、結核を人にうつす可能性がある場合は、他の人に感染させないために入院治療が必要になります。治療を続けて菌をうつす恐れがなくなれば、通院治療に切り替わります。治療は主に抗菌薬（抗結核薬）を服用することで行われ、6か月以上と長期間にわたります。この治療でとても大切なのは、医師の指示に従って**薬を最後まできちんと飲み続けること**です。なぜなら、途中で薬をやめてしまうと、体内に残った結核菌が再び増えて症状が悪化したり、薬が効きにくい「耐性菌」が生まれて治療が難しくなったりすることがあります。結核は正しく治療すれば治る病気です。薬をきちんと飲み続けることが、治療成功の鍵です。

結核は過去には「不治の病」と言われていましたが、現代医療においては、早期発見・早期治療によって治せる病気となっています。結核の症状を疑ったら早期に医療機関を受診しましょう。

※参考文献：加藤 誠也.結核の疫学と対策.医学のあゆみ 280:604-610;2022.

理念

1.信頼される病院 2.心温まる病院 3.楽しく働ける病院

基本方針

●地域における医療福祉の向上につとめ、地域住民のいのちと健康を守ります。●地域の中核病院として、地域の医療機関と連携・協調を図ります。●二次医療を中心に担当します。●医療需要の増大と多様化に対応できる病院づくりを目指します。●超高齢社会における治す医療と支える医療の両立を目指します。

＼ ご協力ありがとうございました！ ／

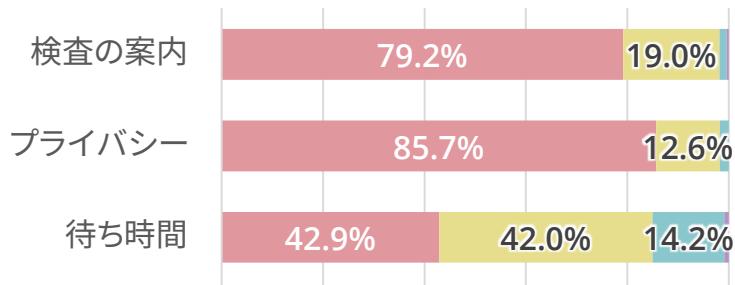
健診センター 満足度アンケート調査結果

当院では、健診センターをご利用いただいた方を対象に、
サービス向上を目的にアンケート調査を定期的に行なっています。
この度、アンケートを実施しましたので調査結果をお知らせします。

実施期間 令和7年10月6日～10月20日
回答率 92.7% (229人/247人)
評価平均点 89.7点/100点 (前回91.6点)



満足度調査



ご意見・ご感想



どこでもゆったり案内してくださって心地よかったです。説明もとても分かりやすかったです。



以前から(10年くらい前)名前でなく番号で呼んでいただくようお願いしていたので満足。



待ち時間が長かった。今まで受けたところは予約制だったので行ったら即始まった。比べてはいけないかもしれません。



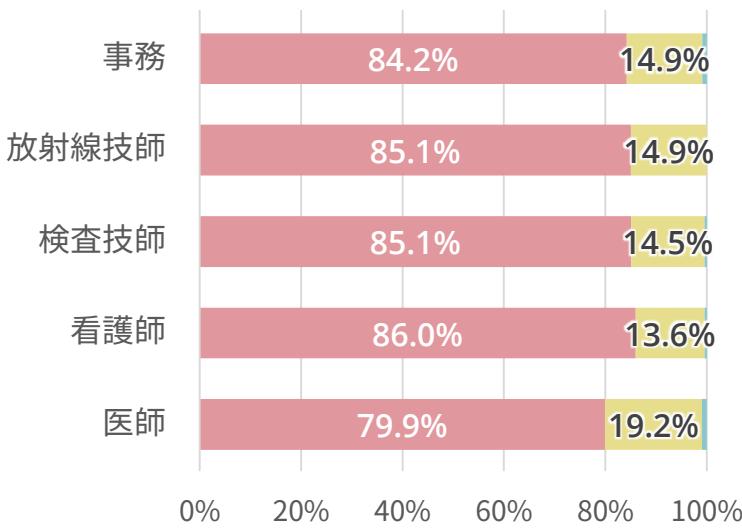
待ち時間にWi-Fiが使えるとありがたいです。



他にも様々なご意見ありがとうございました！今年度は1日の予約数を増やしたため、待ち時間の発生が多く申し訳ございませんでした。

皆さまからいただいたご意見・ご感想を参考にサービス向上に努めて参ります。諸事情により対応しかねることもございますが、ご理解いただきますようよろしくお願いいたします。

スタッフの対応



■満足 ■やや満足 ■やや不満 ■不満

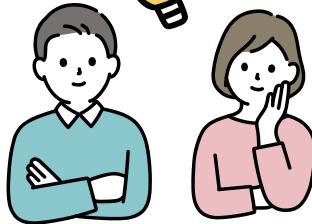
みんなで考えよう！社会的処方

～孤独・孤立なき社会を目指して～

参加費 無料

申し込み 不要

定員 100名 (先着順)



未婚率の上昇や核家族化の進行、家族の希薄化に伴い、今後も身寄りのない一人暮らしの高齢者や孤独・孤立者は増加すると予測されています。身寄りがない高齢者、孤独・孤立による健康問題の現状と課題、これから的生活の在り方や関わりについて一緒に考えませんか？

令和8年

3月8日日

時間

13:30～16:00 (受付 13:00～)

会場

さざんか会館 5階 大会議室

※さざんか会館駐車場・鳥取市駅南庁舎駐車場をご利用ください

座長 鳥取市立病院 総合診療科 診療部部長 懸樋 英一

講演会 第1部 基調講演

現代の社会的な 健康規定要因の考え方と その対応：孤立・孤独

神戸大学大学院
医学系研究科社会健康公正学部門

准教授 西岡 大輔



西岡 大輔 プロフィール

保有資格 医師・社会福祉士・介護支援専門員

2012年 神戸大学医学部医学科卒業

2021年 東京大学大学院医学系研究科社会医学専攻医学博士課程修了
大阪医科大学、京都大学勤務を経て2026年1月より現職

研究領域 保健・医療・介護・福祉・地域社会が密に連携した健康なまち、
しくみづくり、人材づくり
生活困窮者の健康支援、健康への社会的な障壁をもつ人々の
“健康権の保障”

講演会 第2部

地域で暮らす 一人暮らし高齢者の現状 ～家族や地域からの孤立～

鳥取南地域包括支援センター

社会福祉士 岩見 智子

地域共生社会推進連絡会の 地域の中での連携について

鳥取市社会福祉協議会 福部町総合福祉センター

所長 山本 哲也

講演終了後、パネルディスカッションを行います。

※都合により内容を一部変更する場合があります。